



W A M 助 成

事業実施の
ポイントについて

WAM助成が後押しする4つの力

複数の団体が連携・ネットワーク化を図り、4つの力を高めることで、以下の社会課題に対応する活動を後押しします。

- **分野横断**的取り組み等、民間の創意工夫を活かした効果的な支援
- **制度化**・モデル事業化、社会への啓発を図る取り組み
- 異業種・多機関による**連携**・ネットワークの構築
- 地域共生社会に向けた支え手の育成や**住民参加**の促進

WAM助成で対応実績のある社会課題の例

| | | | |
|-------------------|---|----------------------|---|
| 子ども | <ul style="list-style-type: none"> 発達障害・幼少期のいじめや虐待による心の病 非行・学校中退後の孤立・悩みの抱え込み | 依存症者 | <ul style="list-style-type: none"> 自立困難・孤立・判断力低下・自己否定 |
| 子育て家庭 | <ul style="list-style-type: none"> 経済的社会的困窮・産前産後の孤立・教育格差 夜勤等による過労・精神疾患・育児放棄・DV | 非行・刑余者 | <ul style="list-style-type: none"> 社会的自立困難 自立準備ホーム退所後の孤立 |
| 若者・学生生活困窮者 | <ul style="list-style-type: none"> 保証人が付けられず住居確保困難・生活破綻 児童養護施設退所後の孤立・ひきこもり状態 就活でのつまずき・予期しない妊娠・うつ | 多文化家族難民申請者 | <ul style="list-style-type: none"> 言語や文化の違いによる地域での孤立 教育格差・法的地位不安定・居住/就労困難 |
| 障害者難病患者 | <ul style="list-style-type: none"> 自己実現や自己表現の場の少なさ・就労困難 親なき後の問題・看護者の孤立や疲労 | 被災者 | <ul style="list-style-type: none"> 避難先での孤立・体力の低下 地域コミュニティの分断 |
| 中高年者 | <ul style="list-style-type: none"> 若年性認知症と家族全体の社会的孤立 親の介護負担・長期のひきこもり状態 | 住民・介護者 | <ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの希薄化・介護人材の不足 介護者の孤立や疲労・ヤングケアラー |
| 高齢者 | <ul style="list-style-type: none"> 独居で孤立や困窮・移動困難・判断能力低下 | その他生きづらさを抱えた者 | <ul style="list-style-type: none"> 性的マイノリティ その他少数者への差別/偏見 |

WAM助成により4つの力を高めて対応





令和2年度WAM助成実績

令和2年度助成事業について、全141団体から報告された実績数値の総数は以下のとおりでした。支援対象者向け事業の対象者数は延べ240,672人に達し、満足度も97.0%と高い結果となりました。

支援対象者満足度・対象者数

- ・支援対象者の満足度 **97.0%**
- ・支援対象者向け事業の対象者数
延べ **240,672人**

社会課題を共有できた人数・ 担い手を育てる事業の対象者数

- ・社会的課題を共有できた数 **22,559人**
- ・担い手を育てる事業の対象者数
6,635人
- ・支援対象者が担い手となった数
1,241人

連携団体数、専門職の協力者数、 ボランティア参加者数

- ・助成期間中の連携団体数 **2,226団体**
- ・専門職（有資格者）の協力者数 **1,630人**
- ・市民ボランティア参加者数 **5,349人**

行政等との協働や政策・制度の充 実に向けた取組

- ・問合せや視察等の関わり **1,355回**
- ・制度化に向けての取組 **23件**

事業の継続状況

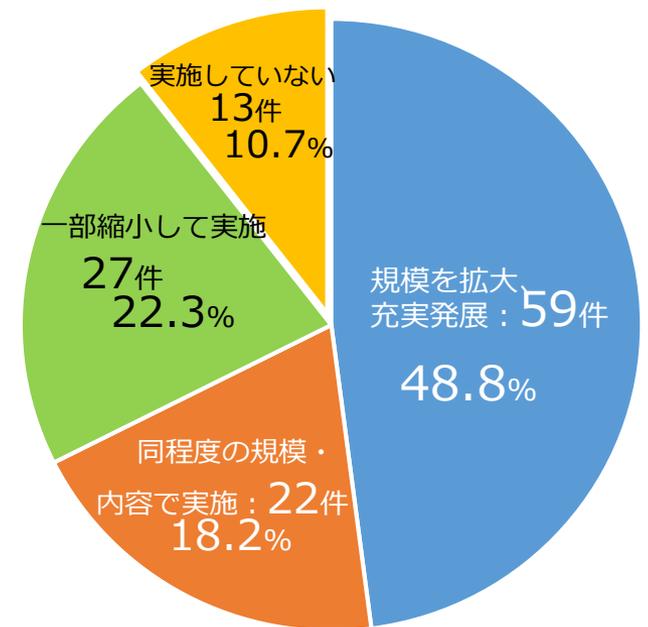
令和元年度の助成先団体のうち、全体の**89.3%**が助成期間終了後も事業を継続していました（助成事業終了後1年6ヶ月経過時点）。

また、約**5**割の団体が「事業規模を拡大または事業内容を充実・発展させて継続している」と回答しました。

「事業規模の拡大または事業内容の充実・発展」の内容

- ①資金規模の拡大
- ②新たな課題を視野に入れたことによる対象者人数・対象者層の拡大
- ③スタッフ・組織体制の充実・発展等の状況の変化

e,t,c,



調査対象：令和元年度W A M助成事業
実施団体132団体 総回答数：121団体
(N=121) 回答率91.7%

事業実施のポイント

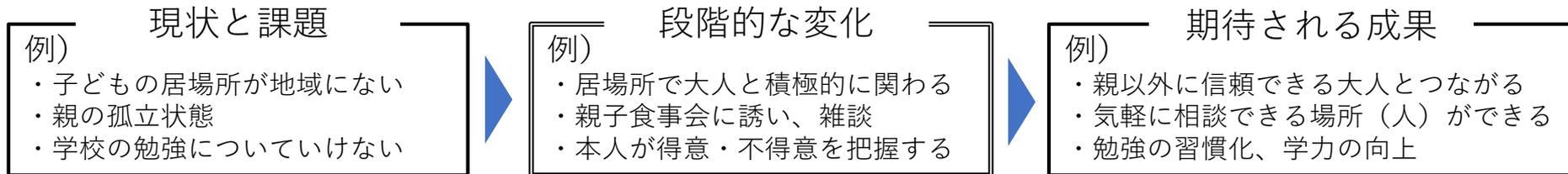
では事業実施中に、
どんなことに取り組めばよいのでしょうか？

これより取り上げる「事業実施のポイント」

- 〈目標設定〉 ✓ 目標を具体化する
- 〈進捗の把握〉 ✓ 状況を把握する
- 〈成果普及〉 ✓ 成果把握・普及
- 〈評価〉 ✓ 事業評価の活用・仕組み・優良事例の特徴
- 〈連携〉 ✓ 事業の地域定着に向けた連携
- 〈広報〉 ✓ 情報発信と注意点
- 〈継続性〉 ✓ 事業継続への備え①、②、③

〈目標設定〉 目標を具体化する

■ 成果目標「こうなったらいいな」と「現状」の間にある変化を段階的に把握



👉 目標設定及び実行上の注意点

目標は、支援対象者のニーズに基づき設定するようにしてください。

実行上の注意点は、事業を実施していくなかで、当初想定していた目標や期待される成果とは異なる方向性が見えてくる場合があります。

その際は、支援の対象者一人ひとりにとっての安心安全を主眼に事業を推進し、その結果を共有いただくようお願いいたします。期中に、そうした状況が生じた場合は団体内で話し合いの上、必要に応じて要望書に記載した「期待される成果」や「数値目標」の見直しについてご相談ください。

〈進捗の把握〉 状況を把握する

■ 団体内部や連携先とともに定期的な事業の点検（振り返り）や、成果（変化等）を把握する際には、活動時の記録が役立ちます。事業の内容にあわせて、「活動記録シート」を作成しましょう。記録する項目の検討にあたっては、簡単なフォーマットとし、記録を継続できるよう工夫することがポイントです。

「活動記録シート」の例

| 活動日 | 活動 参加者名 | 活動中にどんな行動がみられたか | 気になったこと | 確認された 指標(※) | その他、スタッフ内で共有・確認したいこと |
|------|------------|------------------------|--------------------|----------------|--------------------------|
| 4/18 | Aさん | ・自分から調理を手伝う 様子がみられた | ・母親の帰りが遅 いと相談あり | ②、③ | ・母親に必要な言葉か けや支援の紹介の仕方 |
| | Bくん | | | | |
| | Cさん | | | | |

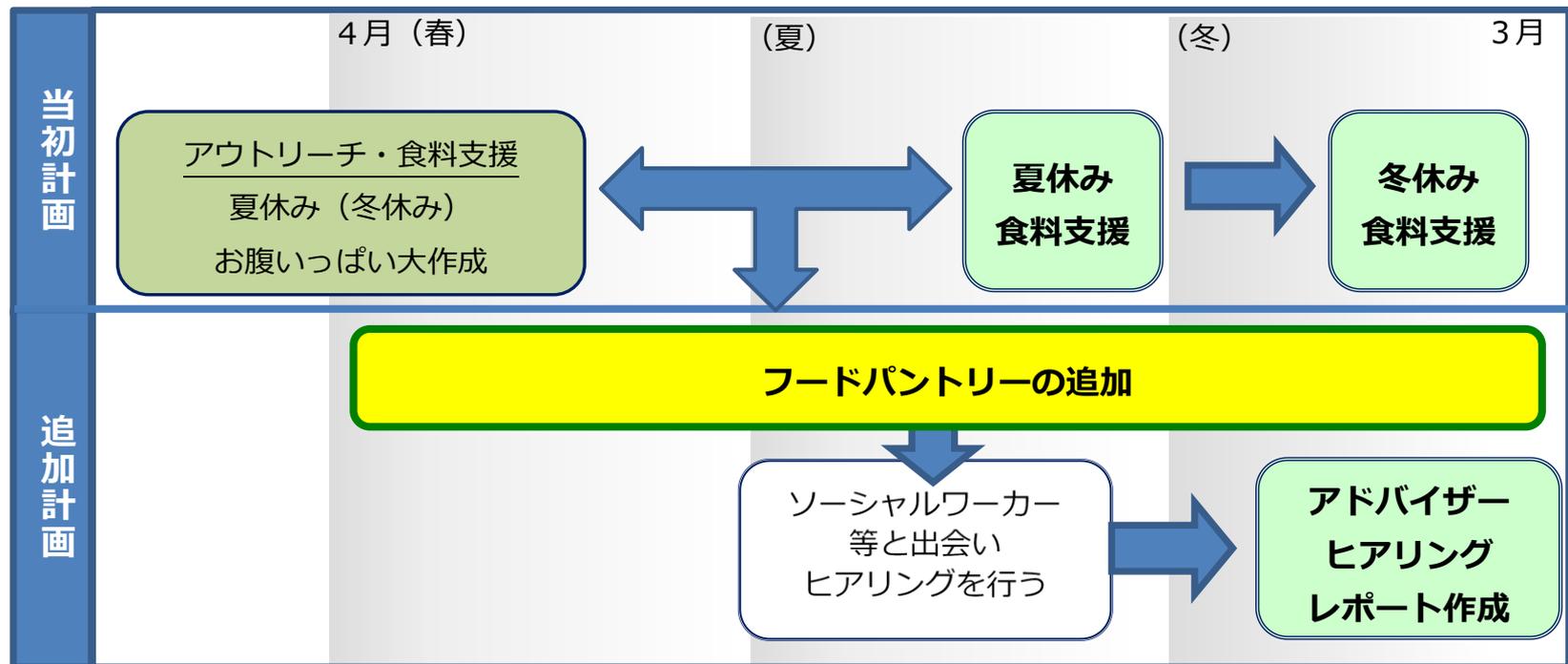
【※団体内で話し合っただめた指標】

- ① スタッフやボランティア等、親以外の大人を頼れている
- ② 活動に対し意欲的である
- ③ 不安なことを相談することができる

〈進捗の把握〉

計画変更によるニーズ対応

- 事業の目指す姿と目的地に向けた具体的な道筋を想定すること、また、想定した計画を必要に応じて修正しながら、取り組んでいくことが事業の成果に繋がっていました。



〈成果普及〉 成果把握・普及

■ 期待される成果を確認する設問を

(例) 子どもの居場所 保護者への事後アンケート

目的 このアンケートは、当団体の今後の活動の参考とさせていただきます。ご協力をお願いします。

1. 回答者の方の属性についてうかがいます。

【性別】 男性 女性 【年代】 10～20代 30代 40代 50代～

2. 今回の事業の満足度について教えてください。(1つ選択)

とても満足 満足 やや不満足 不満足

上記回答を選んだ理由を教えてください。(自由回答)

3. 子どもの「家事を手伝う姿勢」はどのくらい変化がありましたか。

1 2 3 4 5 1 2 3 4 5

参加前 参加後

低い 高い

その変化について具体的なエピソードがあれば教えてください。

4. 親子カフェに参加後、子どもはどんなメニューを作れるようになりましたか。

回答例：
たまご焼き、カレー、

5. より良い居場所にしていくために何が必要だと思いますか。

質問が以上です。ご協力ありがとうございます。

利用者満足度のポイント
満足度の調査を行う場合にはその選択肢を選んだ理由を把握。

変化を測るポイント
子どもの「ありたい姿」について聞いている質問で、その変化、その具体的な内容について把握。

事業の改善のポイント
事業をより良くしていくために率直な意見を収集することも大切。

■ 誰に向けて成果を伝えたいか

(報告書の例)
・ R2年度WAM助成
NPO法人 ダイバーシティ工房



■ 他地域での実践を後押しする成果発信



※WAM助成の成果物は電子図書館システム「e-ライブラリー」でどなたでも閲覧することができます

〈成果普及〉 成果把握・普及

手引き
P35～39

■ 過去の優良事例を掲載



WAM助成レポート
(過去の事例概要・報告書)



事業評価報告書(令和4年1月)
(WAM助成の評価)



電子図書館 (e-ライブラリー)
(過去の事例概要・報告書)



〈評価〉 事業評価の活用

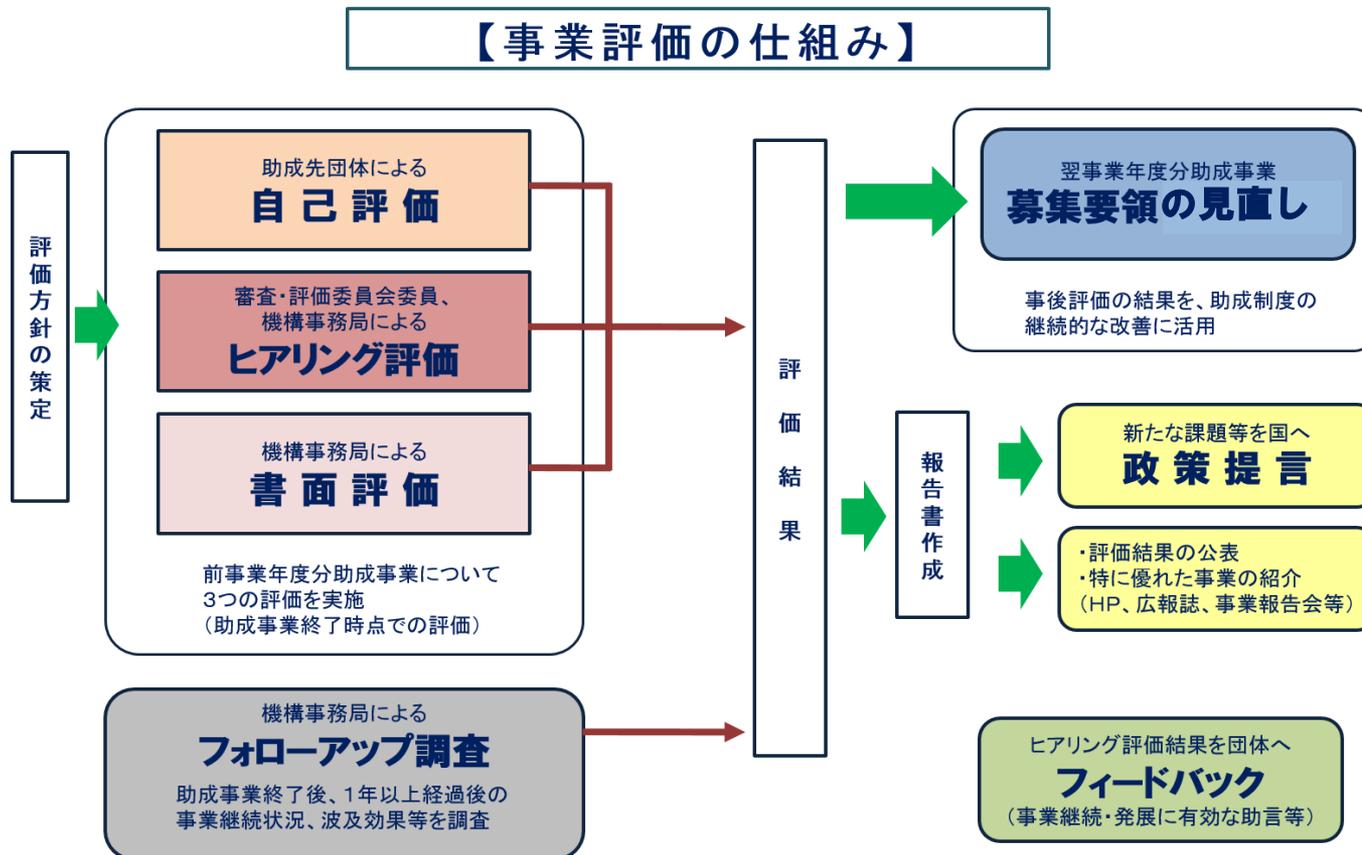
- 団体自身で取り組んでいただく「自己評価」は大切です。助成事業を振り返り、想定していた成果と実際の状況の比較分析等により現状を認識し、今後の活動に役立ててください。

【期待される効果】

- 支援の対象となる方々の個別のニーズ把握が深まる
- スタッフのやりがいが高まり、組織内のコミュニケーションが円滑になる
- 地域や社会が事業の意義を理解するようになり、応援者が増える
- 寄付者、財団、企業、行政などと、事業をめぐる共通の土台ができるので、協力関係が深まる

〈評価〉 事業評価の仕組み

- 評価目的：「事業の改善」「W A M助成制度の改善」「国へ新たな課題を提案」



〈評価〉

優良事例の特徴の例

■ 事業評価、フォローアップ調査からみられた優良事例の特徴の例を紹介します。

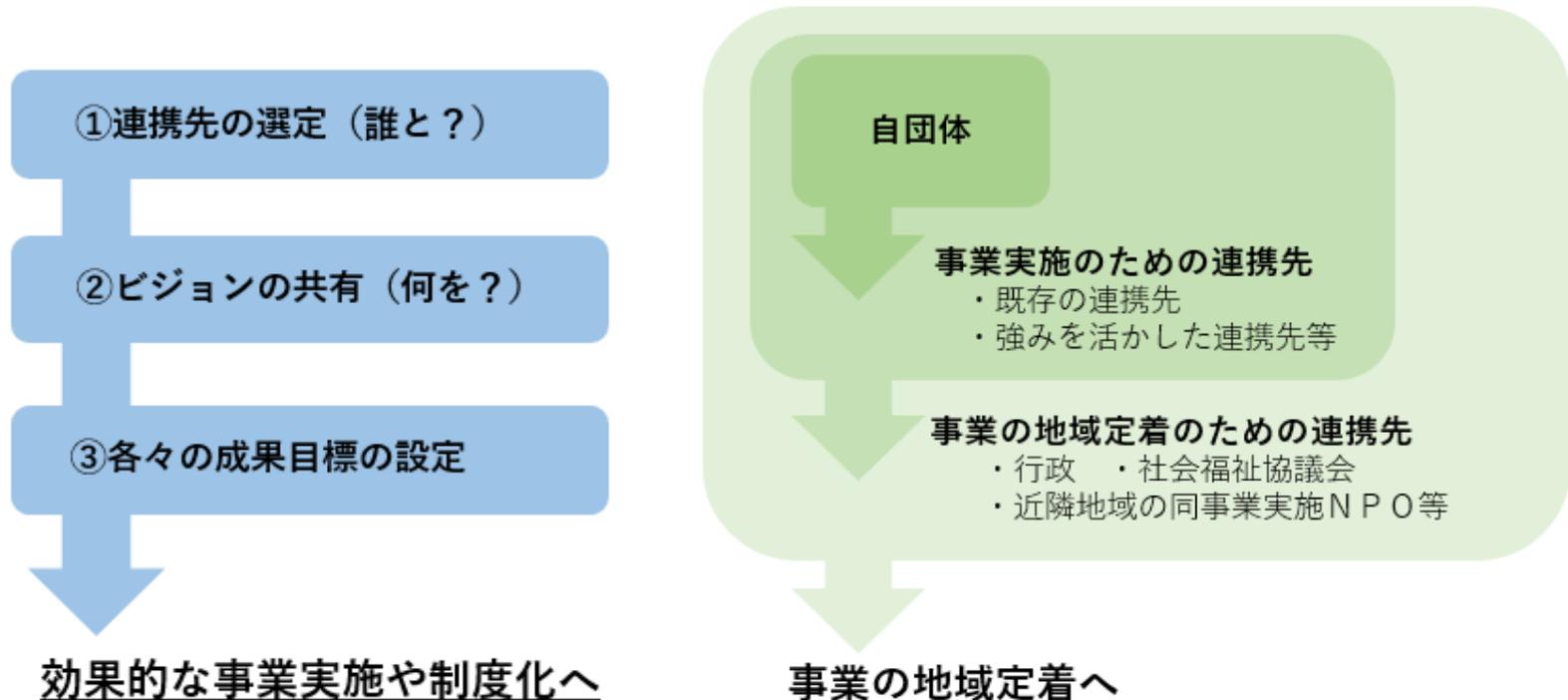
【優良事例の特徴】

- 他団体との連携構築により、地域内での支え手が増えていった
- こまめな情報発信、成果普及を行った
- 行政や福祉や地域の関係者個人ともコミュニケーションを取り続けた
- 支援が必要な人への直接的な支援だけでなく、人材育成など間接的な支援を組み合わせた

〈連携〉

事業の地域定着に向けた連携

- 自団体と連携団体の「強み」を活かしあう形となっている
- 連携団体と「ビジョン」を共有する機会をつくる
- 自団体・連携団体各々が担う役割に目標を設定する



〈広報〉 情報発信と注意点

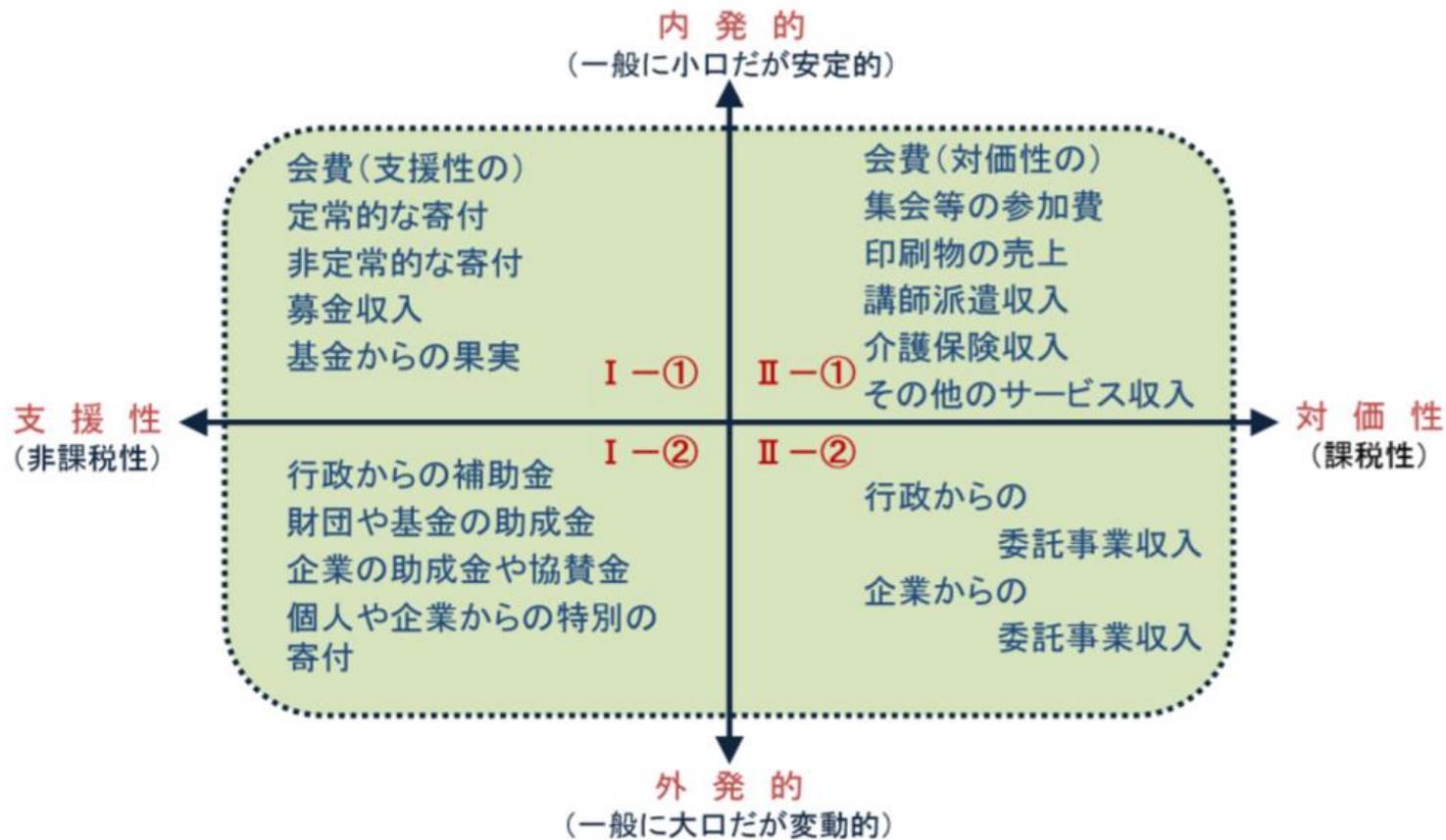
- 「誰に、何を、なぜ、どのようにして」伝えるか対象者の属性で分類し、適切な情報発信の内容や手段を選択
- 本人や保護者の同意を得られる場合を除き、個人が特定できないようにご注意ください。

広報媒体の例



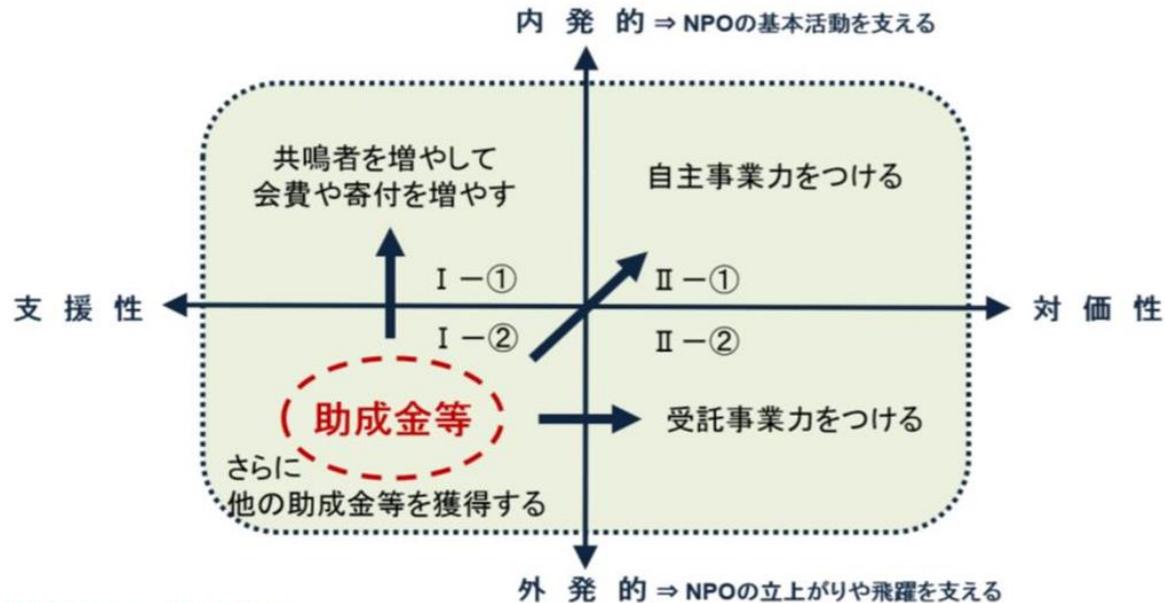
〈継続性〉 事業継続への備え①

NPOを支える財源の構成 —財政面から組織基盤を考える—



〈継続性〉 事業継続への備え②

助成金を組織基盤の強化にどう活かすか？



・助成金はI-②の財源

⇒その財源で、どう効果的な活動を展開し、組織の基盤を固めるか

⇒その成果を、I-①、II-①、II-②の財源の拡充にどう活かすか

16.12.13 WAM助成シンポジウム・山岡義典氏発表スライドより

助成期間中にどのような取組をすることが持続的な事業運営体制の確保につながるか、という視点をもって事業を計画できるかどうかことが重要となります。

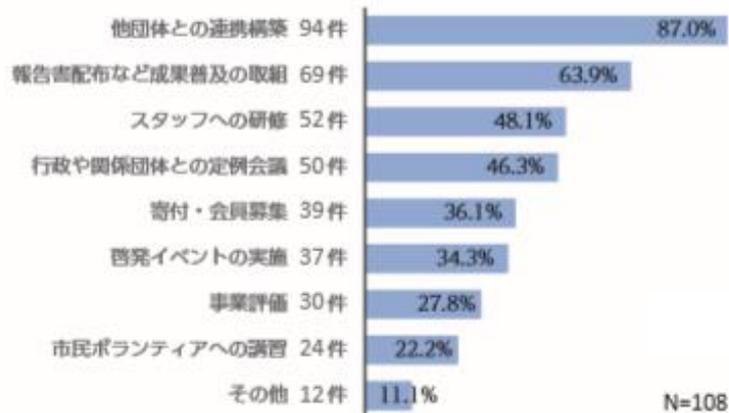
〈継続性〉 事業継続への備え③

WAMが実施している別の助成事業（WAM助成）の事業終了後1年半経過後の調査でわかった事業継続につながった取り組みを紹介します。

「他団体との新たなネットワークの構築」や「継続的な協力者の増加」にいかにつながるか、事業期間中から意識して取り組んでください。

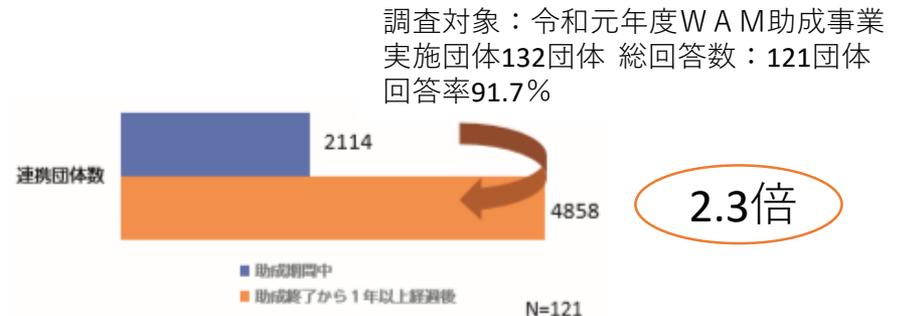
その後の団体活動や組織に与えた効果（複数回答）

1年半経過後も事業を継続している団体のうち87%が、助成期間中の「他団体との連携構築」が現在の継続状況につながっていると回答しました。



連携団体数の変化と連携による効果

1年半経過後の団体に、助成期間中からの連携・ネットワーク団体数の変化について調査を行ったところ、平均2.3倍の拡大がみられました。



調査対象：令和元年度WAM助成事業実施団体132団体 総回答数：121団体 回答率91.7%

その他の留意事項

(ご一読ください)

■ 連携先への委託の取扱

(手引きP.32 5-(3))

- ・業務委託契約の締結が必要
- ・委託内容を整理した契約金額内訳書が必要

※委託の割合が総事業費の50%以上の場合は、事業そのものが助成対象外となるのでご注意ください

■ 利用者アンケート

(手引きP.35-37)

- ・研修会、講習会等の事業において実施
- ・アンケートの実施が困難な場合は、実施前後の対象者の変化を文章でまとめる等により、成果を把握

■ 成果物発行時の注意点

(手引きP.33-34)

- ・発行者は「助成先団体」とする
- ・連携団体の名称のみでの表示はNG
- ・作成・発行年月日は助成対象期間内の日付
- ・無料頒布が原則のため、価格表示は禁止

冊子、報告書など

〇〇チャレンジ事業
NPO法人●●

助成表示

ポスター、チラシなど

主催：●●●団体

ふれあい！
チャレンジ

助成表示

※主催、共催の表示について

イベント看板や印刷物、WEB掲載における表示については、**助成先団体を必ず主催団体として**ください。
なお、**連携団体のみ共催と表示**とすることができ、他団体は後援・協力・協賛に限り表示できます。

助成表示について

(ご一読ください)

■助成事業で作成する成果物には「団体名」と「助成表示」を必ず明記してください。助成の表示がみられない場合は、製作経費は助成対象経費から除外されますので、ご注意ください

【助成表示の方法】

①文字で助成表示を行う場合

令和3年度（補正予算） 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

令和4年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

②助成マークで表示を行う場合



※ 印字のフォントは作成物のバランスを考慮し、著しく小さいものは避けてください。助成団体専用ホームページからダウンロードできます。

令和3年度（補正予算）

<https://www.wam.go.jp/hp/r3hoseidantai/>

令和4年度

<https://www.wam.go.jp/hp/r4dantai/>

WAM連絡システムをご活用ください

- 団体担当者とWAM担当者が個別にやりとりができる掲示板です。
- 50MBまでのファイル送受信が可能。活動の様子やチラシ、報告書など、WAM担当者とぜひ共有してください。
- 助成先団体同士で、イベント告知などの情報交換ができます。



申請書兼請求書に登録するメールアドレスをご記入ください。

登録手続きが完了しましたら、ユーザーID・パスワードを郵送いたします。

WAM担当者より お知らせ

■ W A Mリソースの活用を

WAMが有する「事業評価から得られたノウハウや成果事例の普及」、「民間福祉活動団体とのネットワーク」、「助成実績や成果報告等のデータベース」、「WAMNETによる国の審議会の情報提供」、「社会福祉事業も含めた事業展開への助言」等のリソースや行政との対等な協働関係の構築に寄与するWAM助成の特徴を事業に活かしてください。

■ 他団体とのネットワークを

今年もWAM助成により、全国各地でさまざまな課題に対応する民間福祉活動が取り組まれます。採択となられた皆さま同士がこれを一つの契機として、情報交換など、双方向の連携が進むことを願っています。

■ W A M担当者にご相談ください

団体ごとにWAMの担当者がついています。事業や資金の計画変更の相談や手続き等の他、事業の方向性の検討などお気軽にご連絡ください。悩みも言葉にすると整理ができることがあるかもしれません。

WAMリソースをご活用ください

- **地域共生社会づくりの連携のヒントを掲載**
(アーカイブ動画配信中)

WAM助成シンポジウム (2021) 開催報告 (行政との連携)



オンライン学習会 (2021) 開催報告 (地域における協力関係)



- **事業計運営全体に関するヒントを掲載**

NPOの民間福祉活動 に役立つヒント集 (事業運営のヒント)



ご不明な点がございましたら、
どうぞお気軽にご相談ください。



事務の手引き(PDF版)や申請様式
などは左記のページからダウン
ロードできます。

『令和3年度助成先団体専用HP』
<https://www.wam.go.jp/hp/r3hoseidantai/>

『令和4年度助成先団体専用HP』
<https://www.wam.go.jp/hp/r4dantai/>

独立行政法人福祉医療機構 NPOリソースセンター

〒105-8486

東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷町ビル9階

NPO支援課 : 03-3438-4756

FAX(共通) : 03-3438-0218

NPO振興課 : 03-3438-9942

月曜～金曜 AM9:00～PM5:00 (祝祭日を除きます)